

「薬の窓口」は過去の資料も含めてホームページで公開しています。参考してください。



今回は、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の違いについてご紹介します。

▶ 季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症について（予防・治療方法などについての比較）

	季節性インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
流行時期	例年12～3月 (いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がる)	通年
症状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高熱（38℃以上）、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感 ・ 咽頭痛、鼻汁、咳等の症（普通の風邪と同様な症状もある） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 咽頭痛、鼻汁、鼻閉、咳 ・ 倦怠感、発熱、筋肉痛 <p>インフルエンザに類似した症状。症状のみで両者の鑑別を行うことは困難！</p>
軽症	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高熱を特徴とする症状が出現し1週間程度で回復する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嗅覚、味覚障害（オミクロンに置き換わって以降は頻度減少）
重症	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院となるケースはほとんどない ・ ただし、以下のようにまれに重症化することはある ①小児：急性脳症、②高齢者や免疫力低下患者：二次性の肺炎 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発症後1週間以内に回復する ・ ただし、症状が長引くことがある（いわゆる後遺症） ・ 急に重症化して肺炎を合併するなど入院となるケースがある ・ オミクロン株に置き換わって以降は重症化する割合は低下
重症化リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児：2歳未満と基礎疾患*のある小児患者は重症化のリスクが高い ・ 成人：高齢者、妊婦、基礎疾患*のある患者などは重症化のリスクが高い <p>*：季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症でリスクとなる基礎疾患には違いがあるため、自分が該当するかは医師などに確認しましょう。</p>	
基本的な予防対策	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>③</p> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">受診時や医療機関、高齢者施設などを訪問する時 通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスに乗車する時</p>	
ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不活化ワクチン ・ ワクチン有効率=60% ・ 乳幼児～高齢者まで使用可能 ・ 他のワクチンとの接種間隔に制限なし（同時接種可） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ mRNAワクチン ・ ワクチン有効率=約90%（2回接種した場合） ・ 乳幼児～高齢者まで使用可能 ・ インフルエンザワクチンとの接種間隔に制限なし・同時接種可（その他のワクチンは13日以上間隔をあけること）
治療薬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗ウイルス薬（発症後48時間以内）など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗ウイルス薬（軽症では発症後72時間以内）など
費用	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチン：自費 ・ 治療薬：保険診療（ただし、抗ウイルス薬の予防投与は自費） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチン：公費（令和6年度以降は公費ではなくなる可能性がある） ・ 治療薬：2023年10月～保険診療（例：3割負担の方→9,000円）